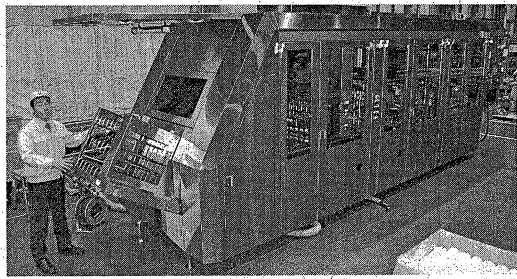


徳 島

経済 全国便

モノづくりで培った技術を武器に、国内外の市場で高いシェア(占有率)を誇る中堅企業に注目が集まっている。創意工夫と努力を重ねて、他社の追従を許さない製品を開発した企業の取り組みを追った。

中堅でも圧倒シエア



操作性を高め、メンテナンスしやすくした次世代の充填機(徳島県北島町で)

屋根型の紙パックに牛乳やジュースなど飲料をつめる専用機を国内で初めて開発したのが四国化工機(徳島県北島町)だ。「屋根型紙容器成形充填機」と呼ばれ、国内で約7割のシェアを持ち、大手乳業メーカー各社が軒並み採用している。

同社は1961年に食品産業向けのタンクメーカーとして設立。取引先の勧めで68年に充填機の分野に参入し、ボトルやカップ、紙容器などの充填機を開発した。無菌状態で充填・密封する高い技術を持つ企業は、世界で2社だけとされ、他社の追従を許さない。

同社は包装資材と食品事業にも参入している。いずれも充填機と密接な関連があり、製品開発に役立っている。食品事業では豆腐を手がけ、人が手を触れずに製造、冷却などを行うことで、保存料などを使わずに180日間の賞味期限を実現した。売上高は機械が4割、包装資材と食品がそれぞれ3割を占めている。

海外市場の開拓も意欲的で、充填機は40か国以上に輸出している。国際部の秦義典副部長は「需要が出始めた北米や、人口6億の東南アジアにも力を入れていきたい」と抱負を話す。(永田毅)

飲料パック 無菌で充填